特 集 「国史跡中山道」碓氷峠越 追加指定

令和7年3月、国史跡中山道に、新たに碓氷峠越（うすいとうげごえ）・刎石（はねいし）茶屋・堂峰（どうみね）番所跡・碓氷関所跡などが追加指定されました。今回はそれを記念し、毎年5月に開催される安政遠足侍マラソンのコースでもおなじみの「碓氷峠越」について特集します。

史跡中山道（碓氷峠越）って？

江戸時代の五街道の1つ、中山道は江戸と京都を結ぶ東海道の裏通りとして重要な街道で、大名から庶民まで多くの人や物資が行き来しました。

その中でも、峠を隔てた上野国（群馬県）坂本宿と信濃国（長野県）軽井沢宿間の山道は、関東に出入りする「碓氷峠越」としてふもとの横川に碓氷関所が置かれたほか、坂本宿に近い「堂峰」という山の中には、関所を通らずに信濃まで行こうとする人を監視するため、番所も設置されました。

また、両宿の距離は約12kmと長いため、山の中に刎石茶屋と山中（やまなか）茶屋という休憩施設がそれぞれ設けられ、大いににぎわったと伝えられています。

今回、中山道碓氷峠越が指定された「史跡」とは、いわゆる遺跡の中でも特に重要なもので、市内では築瀬二子塚古墳に次いで2例目です。

昨年12月、「江戸時代の中山道の道筋と沿道の遺跡が保存され、江戸時代の姿をよく伝える」ことなどが高く評価され、国の文化財保護審議会で、国史跡中山道に碓氷峠越区間と刎石茶屋跡、碓氷関所跡などを追加するという答申が出され、今年3月に正式指定されました。中山道は、長野県と岐阜県ですでに国史跡になっていますが、関東では初めての指定です。県内でも、中山道が未舗装のまま今も残っているのは大変珍しいことです。